

通信教育講座バウビオロジー

16

空間 - フォルム - 釣合い

建築家 ヴォルフ=D・ブランク

日本語版監修 石川 恒夫・檜野 紀元



Institut für Baubiologie + Oekologie, 83115 Neubeuern  
[www.baubiologie.de](http://www.baubiologie.de)



日本バウビオロジー研究会  
Baubiologie Institute of Japan  
[www.baubiologie.jp](http://www.baubiologie.jp)

# 空間 - フォルム - 釣合い

# 16

IBNによる序言	3
1. 空間	3
1.1 「空間」とは何か	4
1.2 空間をつなぐ要素	6
1.3 生活空間	7
1.4 空間の質	8
1.5 建築という空間 - 人間と建物	10
1.6 人間と空間 - 住居	13
1.7 人間と空間 - 相互に浸透しあうエネルギー場	14
1.7.1 医学的・物理学的認識	
1.7.2 思考と行為の力	
1.7.3 「エネルギーの経路」とその作用	
1.7.4 建設現場	
1.7.5 場の特徴	
1.7.6 リズム	
1.8 土、空間を癒す	22
1.9 方角の意味	23
2. フォルム	25
2.1 フォルムの力	25
2.2 男性的な極、女性的な極	26
2.3 バイオニクス	27
2.4 有機的建築	28
2.5 神聖な建築	29
2.6 シンボル	30
2.7 自然の要素を用いた建築物	33
2.8 ゲオマンティを用いた建築	34
3. 釣合い	35
3.1 釣合いのシステム	36
3.2 建材と構造	37
3.3 建築基礎としての調和の法則	38
3.3.1 モノコード	
3.3.2 調和的な建築	
3.3.3 その他の調和システム	
3.4 全体的建築のための手引き	47
3.4.1 釣合いとしての人間	
3.4.2 自然は最高の師	
3.4.3 調和を表現する数学と芸術	
4. 展望：バウビオロギーの手引き	50
問題	53
参考文献	

## 2 形態

### 2. 1 形態の力

どの建築物にも形態がある。形態は、見る人にとってはニュートラルな（つまり特に目につかない）ものであったり、肯定的な印象を受けるものであったり、あるいは拒否反応を引き起こすものであったりする。

グラス、あるいは楽器の弦が、ある音のところで共振を始めることは、誰もが知っている。このよく知られた効果は、**共鳴**と呼ばれている。同様の効果は、人間にも起きる。ある種の思考、感情、シンボル、モノ、あるいは形態は、私たちにとって特に魅力的だ。それは私たちを魅了し、私たちの魂のなかの何かを「共振」させる。現代では、主に物質的な作用、たとえば気体臭や光線、磁場、湿気などが重要とみなされている。それに対してあまり注目されていないのが、**形態の持つ精神的・心的な力**だ。この力は、形態の持つ特殊なアイデンティティーによって見る人のなかに呼び覚まされ、そこで共鳴を生み出すのである。

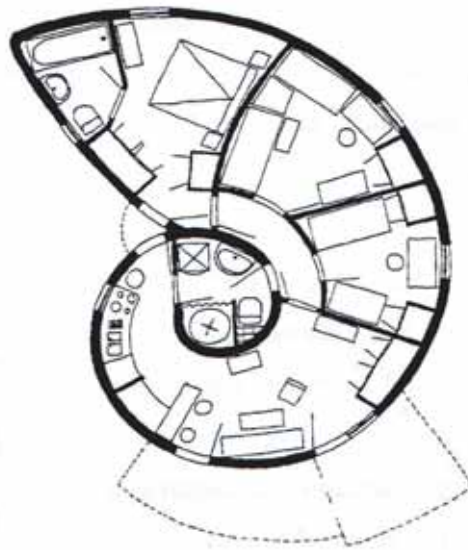
私たちに「語りかける」形態としては、例えば以下のようなものがある。覗き込むと、向こう側まで見渡せるような興味深い造形の穴。有機的な建築体。瞑想のための庭。時代を超える建物（寺院、仏塔）、曼荼羅などの**シンボル**。シンボルはアナロジー思考の世界のものだ。シンボルは、何かを表現している。その何かとは、力であったり、メッセージであったり、価値であったりする\*<sup>1</sup>。

\* 1  
2.6 参照



図6. 独自のアイデンティティーを持った建築形態は、人間の心に語りかけ、安らぎをもたらし、魂に触れる。

図7. バイオニックな建築形態  
出典：“Bionische Bauformen”  
W+G 75/76



## 2. 4 有機的建築概念

有機的建築は、バイオニックの理念に近い。形態と機能の統一原則にできるだけ近づこうとするものだが、幾何学のような数学的な計算法は用いない。有機的建築に関しては、一般的に通用する定義は存在しない。有機的建築のプロセスの大部分を占めるのは**アントロポゾフィー**<sup>\*1</sup>の要素である。有機的建築とは個人の認識能力に依存するもので、宇宙的・精神的な力とつながりを持つ。したがって、従来の意味での様式ではなく、「認識から派生した行為の成り行き」と呼べるものである。

\*1

アントロポゾフィー：  
ルドルフ・シュタイナーの創立による世界観運動。「霊学（精神科学）」を通じて、精神界への道を人間に示す。

有機的建築物は生き物に相当し、自然の「流れ」に倣ったものである。幾何学的で動的な要素は、生命のある有機的な要素へと変化し、幾何学模様の繰り返しは現れない。形態が鉱物・結晶・植物の分野から取られた場合には、それは単に模写ではなく、例えば樹木の構造、枝分かれ、力の流れなどを自然な形で発展させたものとなる。人間との関連は、身体と空間を対応させるところに現れる。心的なものへの関連は、色彩の芸術に現れる。形態の力は、その元となったものから放たれ、その力が精神的なものに作用するのである。その際、「芸術家」は、宇宙とのつながりのなかで感じたものを建築物の中に取り入れなければならない。

### 3. 尺度

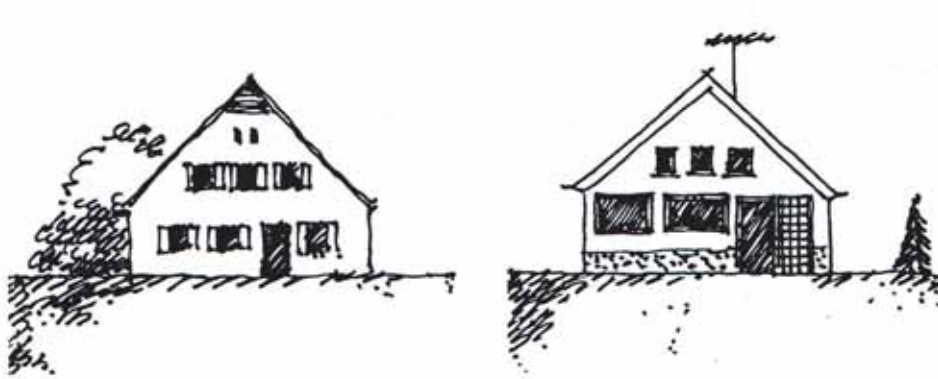
「美は、美しい形態、部分との調和、部分同士の調和、全体との調和から生まれる。それによって建築物は、欠陥のない完全な比率を持った身体として現れる。その身体全体にとっては、すべての部分が不可欠なのである」

アンドレア・パラディオ

現代建築に見られる尺度は、伝統的・地域的な建築法に比べると、残念ながらそこにゆっくり滞在したいと思わせたり、コミュニケーションを促したりするものではない。それはなぜだろうか。

原因は建物が高すぎたり、威圧感があったり、幅がありすぎることにある。また特に、建物の構造が適切に区分されていないことも原因となる。例えば、昔からある広場に見られる家並みには、人間のサイズを重要な基準とし、それに合わせて作られている繊細な区分が見られる。

空間やファサードの寸法や比率は好き勝手に決めてはいけない。しっかりとした根拠から導きだされた尺度のシステムを基礎とするべきである。



ファサード - 窓 - ドアの造形が、その地方のものではない雑多な形態と材料を使うことでバラバラに解体されてしまった例

図 1 3 : ファサードと適切な尺度 [2]